

中途失聴者だけでなく、何割かの高齢者が聞きづらさを感じ生活しています。話しかけられて反応が鈍く、認知症と間違えられたこともあります。日常生活での不便を「仕方がない」で諦めています。自分が世間から取り残されていく不安は常にある中、情報難民ということで聞こえない為に知らなかったと不利を被ります。

また、難聴者が認知症になる確率は健聴者の2倍以上とも言われ、聞きづらさの問題は社会参加を阻む一因であり、解消を進めなくてはならない課題と思います。高齢社会故に、高齢者にこそ伝えなければならない内容の際には是非、要約筆記を活用して頂きたいと思ひますし、より効果をあげるよう自治体からも啓発してほしいと思ひます。

不自由を訴えることは決して我儘ではなく、難聴者がもっと声に出して対策を求めてよいと思ひます。

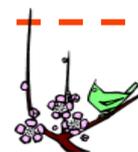
要約筆記者をもっと養成して下さい。

要約筆記者になって助けて下さい。

要約筆記の必要性と要約筆記者の活動をもっとPRして下さい。

私達自身も要約筆記による聞こえのバリアの軽減に希望を持ちたいと思ひます。

講演会等に手話通訳と並んで「要約筆記あり」が当たり前になることを願っています。



ぶんご梅

共存

北原 恵子

世界を震撼させている「新型コロナウイルス」。医療崩壊、ロックダウン、使ったことのない言葉が

文 字や音声で飛び交い始め早くも半年。国の文化や習慣、日常の当たり前をひっくり返したこの試練は我々の生命に何を訴えているのだろう。そんな哲学的なことを考える余裕もなく、ステイホームにソーシャルディスタンス、マスク確保に手洗いうがい、精一杯のなか、今年も後半。感染拡大の影響で、かけがえのない命や儀式などの大切な時間を失われた方々を思うと大変悲痛である。

臨時休業に緊急事態宣言。見通しの立たない暮らしの最中、久しく会っていないなかつた親戚の声を聴いたり、日頃気づかなかつた子どもたちの成長にドキッとしたり、筋肉体操が想像をはるかに超えて爽快だったり、些細であるがそれなりにインパクトが強い喜びに気づいた日々でもある。新しい価値観、気づかなかつた自分の気持ち、知らなかつた家族の姿などの発見があることで、見えない敵と共存するような経験も必要なんだと言ひ聞かせ日々過ごすことにしている。

安寧な日々を過ごせるよう、一日も早い新型コロナウイルスの終息を願うばかりである。

※ぶんご梅は月刊以来続いているコラムのエッセーです。



2019 年度全国統一要約筆記者認定試験合格

河井 美恵さん (パソコン)

廣川 慶介さん (手書き)

コロナのせいで、
交流会も実施できない
昨今です。

一堂に会し語り合う
ことはもうしばらく辛抱。
いまは紙面を借りて
「交流」しませんか？

コロナが蔓延し始めて
からの生活の変化、日々の
雑感、文章だけでなく写真
も結構です。

会員、難聴者協会の方、
夢サラダの方、聴覚障害者
センターの方 etc...

集まらないから

紙面で交流会 しませんか？

私たち要約筆記に関わる
方どなたでもご投稿お待ち
しています。

掲載は春号と秋号の予定
です。字数は 300~500 字
程度、写真データにコメント
付きも OK です！

(小寺 淑子)



編集後記

コロナ禍により会の活動もままなら
ない中、オンラインでの役員会や学習会が
スタートしました。

「オンラインでの情報保障は難しそ
う...」と言うと、ある先輩が「難しいと
言わずに『こんなこともできるんだ、す
ごい!』と思うように」と一喝。

そのとおりですね。「ウィズコロナ」が
求められる今、離れた場所にいる聞こえ
が不自由な方々に対しても情報保障がで
きるようになれば、本当にすごい！です
ね。

毎週火曜日の夜、有志でオンラインの
部屋に集まり、ズームやキャプショナ
インなどのツールを使いこなすべく学習
を重ねています。皆さん、利用者として
の参加も大歓迎です。興味のある方は、
ぜひ私たちのお部屋をのぞいてみませ
んか。

広報紙 92 号、遅れましたがようやく発
行にこぎつけました。

皆さまのご協力に感謝いたします。

(森崎 百合子)